

「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」

## 平成 29 年度実施報告書

埼玉県立春日部高等学校

### 1 学校の現状と課題

本校の使命は、校訓「質実剛健」・教育目標「文武両道」を実践し、社会人として健全な判断力と行動力を兼ね備えたリーダーの育成である。これを踏まえた「目指す学校像」の実現に向け、生徒の学力向上や進路指導の充実に係わる様々な取組を実践してきている。また、重点目標に難関大学の進学実績の向上を掲げ取組んでいる。

生徒は、普段から高度な授業内容に積極的に対応し、全員がセンター試験を受験し高い次元での自己実現を目指している。その目標のもと、生徒一人一人は互いに個性を磨きともに啓発し合う中で、学習と特別活動等を両立させ充実した生活の確立を目指している。

しかし、生徒はまだまだ時間に対する基本的効率的な自己管理能力を身に付けた「自立した学習者」とは言えない。このことを踏まえ、生徒に時間管理についての指導や支援、集中力の向上や自主的学習時間の一層の定着を図る指導が今後の課題である。

### 2 本校における 28 年度までの取組及びその成果と課題についての概要

本校では、①自己認識及び自己啓発の確立 ②進路意識の向上 ③学力の向上 ④教員の指導力向上 の4つの柱を設定し取組んできた。その結果、多種多様な講演会や体験活動・実践をとおして、進路意識の高まりや将来を担うリーダーとしての認識は確実に高まっており、その成果は進学実績に表れている。平成 28 年度生大学入試では、難関国公立大学・国公立医学部医学科 47 名、国公立大学 160 名、難関私立大学（早慶）85 名の合格者が出ており、平成 27 年度と比較しても年々増加傾向にある。しかし、その反面、中間層や下位層の底上げが必要となっている。また、学習と部活動等との両立を徹底し、心身を鍛えリーダーとしての自覚を持ち、夢の実現のために「志」を育てる教育が継続的に必要である。

### 3 本年度（29 年度）の実践

#### 1) リーダー育成、学力向上に向け、外部人材を活用した講義・講演等の実践について

##### ア 講義・講演等のねらい

- ・大学体験授業…各大学の教育内容の概要及び入学試験の現状を知ること、進路意識を高めさせる。また、早い時期から意識付けさせ、高い志を持つ者同士で刺激し合える仲間を作るきっかけとする。
- ・SS 特別講演会…最先端の研究を行っている第一人者からの講演を聴き、興味関心を深めると共に、リーダーとしての在り方を考える機会とする。
- ・大学模擬講義…大学での講義を高校の早い段階で体験することで、大学受験や将来の志望に興味関心を抱き、志を高める機会とする。
- ・難関大学説明会…最新の大学及び受験情報を学ぶことで、夢や志を高く持つ機会とする。
- ・進路トーク…社会の第一線で活躍している本校のOBを招き、高校・大学時代の様子や現在の仕事を通して職業観を聴くことで自分の将来像を考える機会とする。

- ・リーダー育成講演会…各界で活躍しているリーダーを講師として招き、その生き方やあるべき姿を学ぶ。

#### イ 講義・講演等の概要

- ・ 6月 大学体験授業（希望者）  
一橋大学、早稲田大学、慶応義塾、筑波大学、東京理科大学、千葉大学
- ・ 10月4日 SS特別講演会（全学年）  
東京大学 大気海洋研究所 海洋生命科学部門行動生態計測分野 佐藤克文 教授  
演題「動物が調べる科学：バイオロギングサイエンス」
- ・ 10月11日 大学模擬講義（工学部希望者）  
東北大学工学部 教授 安齋 浩一氏  
演題「工学とは何か ～材料科学・材料工学を例に～」
- ・ 10月20日 難関大学（東大・京大・東工大・一橋大・医学部）説明会（2年希望者）  
外部教育団体講師及び本校進路指導部教員
- ・ 10月25日 大学模擬講義（1年生全員）  
千葉大学工学研究科 教授 教授 斎藤 恭一氏  
演題「春高卒業生が研究開発した吸着繊維が福島第一原発の汚染処理に採用されるまで」
- ・ 11月15日 大学模擬講義（2年生全員）  
一橋大学経済学研究科 教授 塩路 悦朗氏  
演題「人手不足の経済学ー若者の未来は明るいかな？」
- ・ 1月17日 リーダー育成講演会（本校OB）（2年生全員）  
講師：株式会社 ワコール 猪熊 敏弘氏
- ・ 1月31日 進路トーク（OBによるパネルディスカッション）（1年生全員）  
講師：フォルクスワーゲンジャパン社長 東福寺 厚樹氏  
東京大学天文学教育研究センター 高橋 英則氏  
いわかみクリニック 岩上 真吾氏  
株式会社 電通 近藤 雄介氏

#### ウ 生徒の様子（アンケート結果等）

- ・実際に大学を見学したことで、建物の感じや大学の雰囲気などを知ることができた。また、OBの方々から大学の話や高校時代の過ごし方を聞くことができ、とても充実した大学見学にすることができた。
- ・先輩の話を聞いたのはとても良かった。勉強へのスイッチが入った。
- ・大学の広さとレベルの高さを知ることができた。大学は、高校以上に自主性が必要となることも知ることができ、行って良かったと思った。
- ・アカデミックフィールドでは他人と同じことをしていても新しい成果は得られないという話が印象に残りました。
- ・その時には興味がなくても取りあえず様々なことを全力でやってみることは大事なことでということを知りました。

- ・春高での勉強に対する意義についての話をしてくださいました。一番心に残っていることは「一生懸命」やるのではなく「真剣」にやるのが大切であるということだ。「真剣」に今の授業をやれば学校生活は楽しいものになってくるであろうし、今後にも役立つと思う。今後はどの科目も「全力」で「真剣」にやるということを心がけたい。

## 2) 県主催の事業に参加した生徒による報告会等学校全体への波及の取組についての実践

### ア 報告会等のねらい

本校の代表として参加した生徒が、学んできたことを伝えることで貴重な体験を共有し、リーダーとして社会に貢献したいという意識を醸成させる。

### イ 報告会等の概要

- ・高校生のためのアスペン古典セミナー参加者4名 → 生徒会本部役員会で報告
- ・他県視察（東北大オープンキャンパス）参加者155名 → 各HRで報告
- ・東日本大震災被災地訪問バスツアー参加者2年生5名 → 学年集会時に報告
- ・芸術文化アカデミー（写真ワークショップ）参加者2名 → 部活動内で報告
- ・トップアスリート講演会参加者8名 → 部活動内で報告
- ・自治医科大学医学部訪問セミナー参加者2名 → 医学に興味ある者で情報交換
- ・最先端スポーツ研究施設訪問参加者3名 → 運動部合同ミーティング時に報告
- ・先端研究施設訪問（高エネ研・産総研）参加者6名 → 課題研究発表会で報告

### ウ 生徒の様子（アンケート結果等）

- ・自分の意見をいかに大勢の方に伝えるかという難しさを知りました。
- ・アスペン古典セミナーに参加していた人達は、皆大変意欲があり、親切に接してくれて、多くの他校の友人もできました。この体験が将来、職場等でのプレゼンや取引先との交渉に役立つ力が身についたと思います。
- ・各自が医者になりたいという強い気持ちでセミナーに参加しており、「自分も負けてはいられないぞ」という良い刺激になった。また、医学生から受験のことや大学での生活について聞くこともでき、一層、医者になりたい気持ちが強まりました。
- ・被災地を訪問し、震災の悲惨を身をもって知ることができた。この貴重な経験を自分が望む未来へ向けて前進するための糧にしたいと思いました。
- ・私は昨年もこの事業に参加しました。今年も参加した理由は、1年の時を経た被災地の変化をこの目で確かめたかったからです。ありのままの被災地の現状を自分の目で直接見れたことは、どんな情報収集の手段にも及ばないと思います。また、現地での高校生とのディスカッションは、テレビや新聞の記事よりも現実味を帯びていて、説得力があり、とても有益な時間となりました。今回の経験を踏まえ、他人事ではなく同じ日本人としての自覚を持って自分の将来に活かしていきたいと思いました。
- ・ピンホールカメラを使用しての写真撮影は、日々の部活動では味わえないものなので、参加して良かったと思いました。
- ・トップアスリートの最先端のトレーニングについて学ぶことができました。実際に講義を受講し自分が今まで知らなかったトレーニング方法などを体験することができました。また、最先端の技術や器具があり驚きました。普段目にすることができないものを見ることができたので、とても貴重な経験になりました。この経験を活かし、質の高い練習につなげていきたいと思っています。

### 3) 他県視察について

#### ア 報告会等の概要

職員会議にて、参加教員3名から視察した東北大学・横浜翠嵐高校について、それぞれ学校概要等について報告をおこなった。

#### イ 視察を踏まえた指導改善の取組または見通し

##### ・東北大学の視察

大学のオープンキャンパスに生徒の引率を兼ねて実施した。生徒の参加者は年々増加傾向にあり、現地の卒業生に協力を要請し、学部ごとに卒業生が生徒の案内を行った。視察により、志望者に対して最新の大学情報や様子を提供できるとともにモチベーションの維持・向上が期待でき今後も継続する。

##### ・横浜翠嵐高校の視察

近年、進学実績の伸びが顕著である横浜翠嵐高校の研究授業・研究協議に参加させて頂いた。グループワークを上手に取り入れていて、生徒達が、生き生きと主体的に活動している姿に感銘を受けた。教育課程や使用教材、授業計画も大変参考になった。今後に生かしていきたい。

### 4) 学校において事業5年間を見据えた組織的な進路指導体制を構築する取組について

#### ア 生徒一人ひとりに高い志を持たせる

生徒一人ひとりの良さを見つけ伸ばす指導をとおして、生徒が自らの無限の可能性を信じ、自信を持ち自らの力で進路を切り拓いていこうとする雰囲気や絶えず校内に醸成する。

- ・定期的な生徒との面談を、学校全体で同じ時期に実施する。
- ・学年毎の進路検討会を実施し、実力試験の結果から生徒個々の全国的な学力レベルを把握し学年団で共有する。そして、教職員全体で生徒を指導し上位校を目指す意識を育てていく。
- ・ガイダンスの充実・定期的な進路講演会・大学見学会の活用・大学模擬講義実施

#### イ 学習時間の確保と家庭学習の定着

隙間時間を活用させることにより、自学自習の習慣を確立させる。この定着を図る指導が、高い次元での自己実現を果たすための大前提である。

- ・春高手帳を活用させ時間に対する基本的・効率的な自己管理能力を身に付けさせる
- ・朝学習
- ・早朝講習会、長期休業中の講習会、個々に対応した小論文指導

#### ウ 教職員の質の高い教科指導力を維持する

質の高い授業実践と指導内容や指導方法の工夫改善が絶えず必要であり、生徒のやる気を喚起する学習指導に万全の態勢で臨まなくてはならない。

- ・教員セミナーへの積極的な参加。入試分析会への参加。校内進路研修会の充実。
- ・公開授業や研究授業を活用した教科内の研修の充実。
- ・生徒による授業アンケートの実施。

### 5) その他

4 参考資料

埼玉県立春日部高等学校  
「骨太のリーダーを育成する高校生のための  
埼玉版リベラルアーツ事業」



	平成29年	平成30年	
難関国公立大学合格者	47名	41名	
国公立大学合格者	160名	130名	※前期のみ 3/16現在
早・慶 延合格者	70名	70名	